

## 6-11 近畿・中部地方の地殻変動

### Crustal Movements in the Kinki and the Chubu Districts

国土地理院

Geographical Survey Institute

第1図は小千谷放射基線の測量結果である。この地域には褶曲構造が発達するが、現在までのところこれに関連した変動はみられない。第2図は阿寺断層の付知での変歪測量結果である。断層を挟む尾ヶ平一本町の距離は観測開始以来系統的に短くなっている。

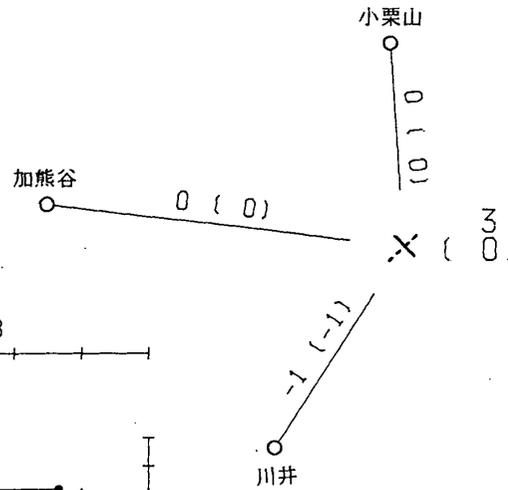
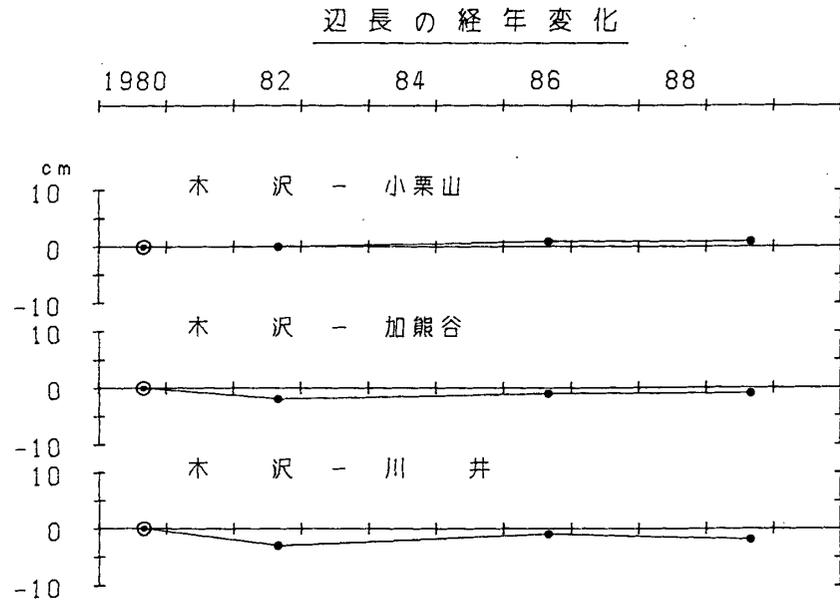
第3図は紀伊半島の海南-すさみ間の上下変動である。前回とは逆のパターンになっており、測量の系統的な誤差による見かけの変動と思われる。第4図は紀伊半島の各駿潮場間の月平均潮位差である。

#### 参 考 文 献

- 1) 活断層研究会：日本の活断層—分布と資料，1980，p363.
- 2) 国土地理院：中部地方の地殻変動，連絡会報，37（1987），341-344.
- 3) 国土地理院：近畿地方の上下変動，連絡会報，31（1984），424-437.

測定年 区 間	1980.08	82.08	86.08	89.08
	木 沢 — 小栗山	6003.31 <sup>m</sup>	.31 <sup>m</sup>	.32 <sup>m</sup>
木 沢 — 加熊谷	10715.21	.19	.20	.20
木 沢 — 川 井	7085.26	.23	.25	.24

辺長変化 及び 水平歪  
1989.8 — 1986.8



単位 cm

( )  $\Delta s/s$  単位  $10^{-6}$

$2 \times 10^{-6}$  伸び } 主軸  
 $2 \times 10^{-6}$  縮み } 副軸

数値 最大せん断歪  $10^{-6}$

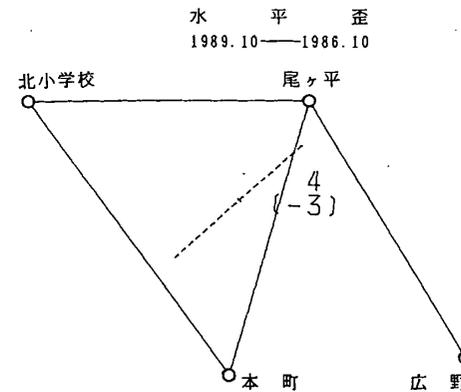
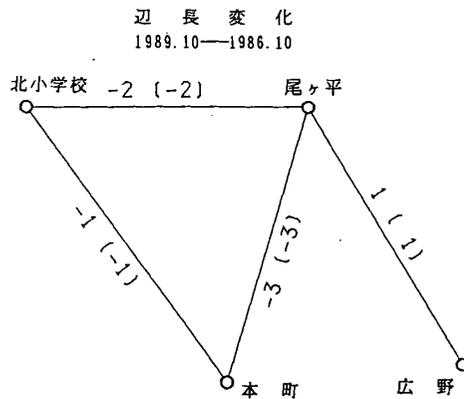
( ) 面積変化率  $10^{-6}$

第1図 小千谷精密変歪測量結果

Fig. 1 Results of precise distance measurements at the Ojiya radial base-line.

測定年 区 間	1980.09	86.10	89.10
尾ヶ平 - 本町	1166.228 <sup>m</sup>	.225 <sup>m</sup>	.222 <sup>m</sup>
尾ヶ平 - 広野	1227.967	.964	.965
尾ヶ平 - 北小学校	1110.	.805	.803
北小学校 - 本町	1392.	.401	.400

測器：メコメーター ME3000



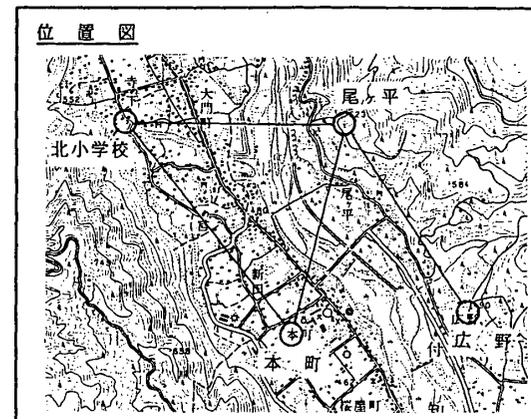
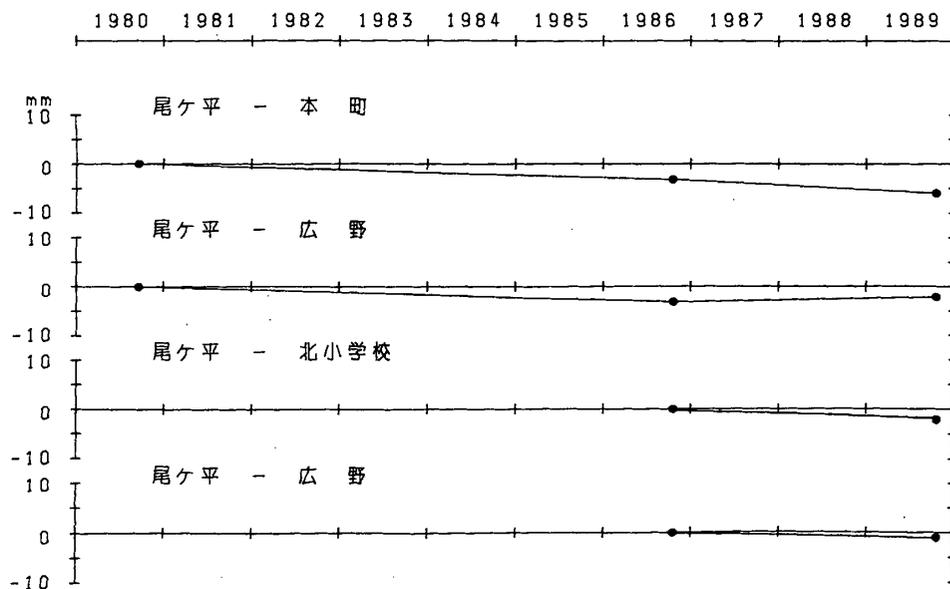
単位 mm  
( )  $\Delta s/S$  単位  $10^{-6}$

$1 \times 10^{-6}$  伸び  
 $1 \times 10^{-6}$  縮み } 主軸

数値 最大せん断歪  $10^{-8}$

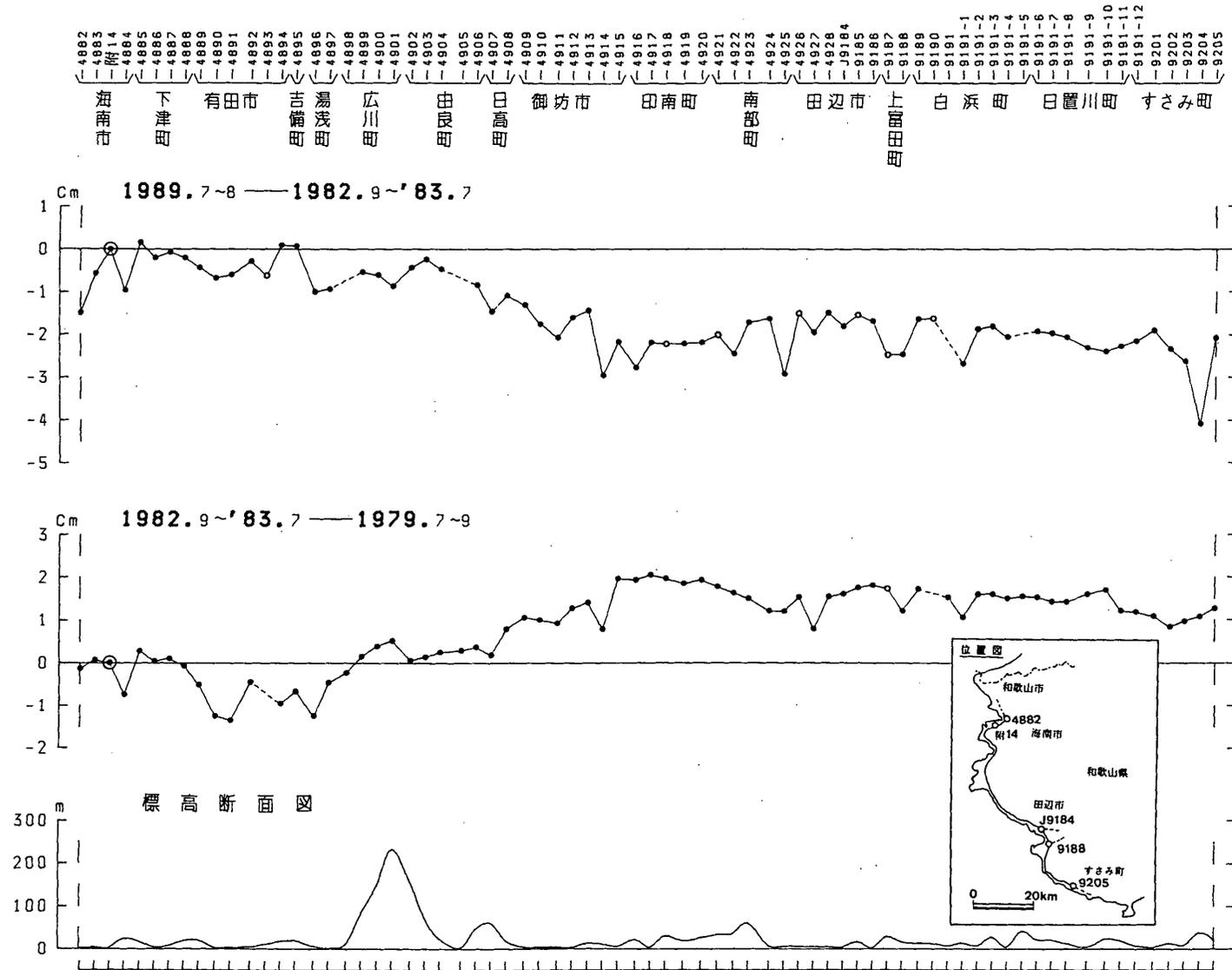
( ) 面積変化率  $10^{-8}$

辺長の経年変化



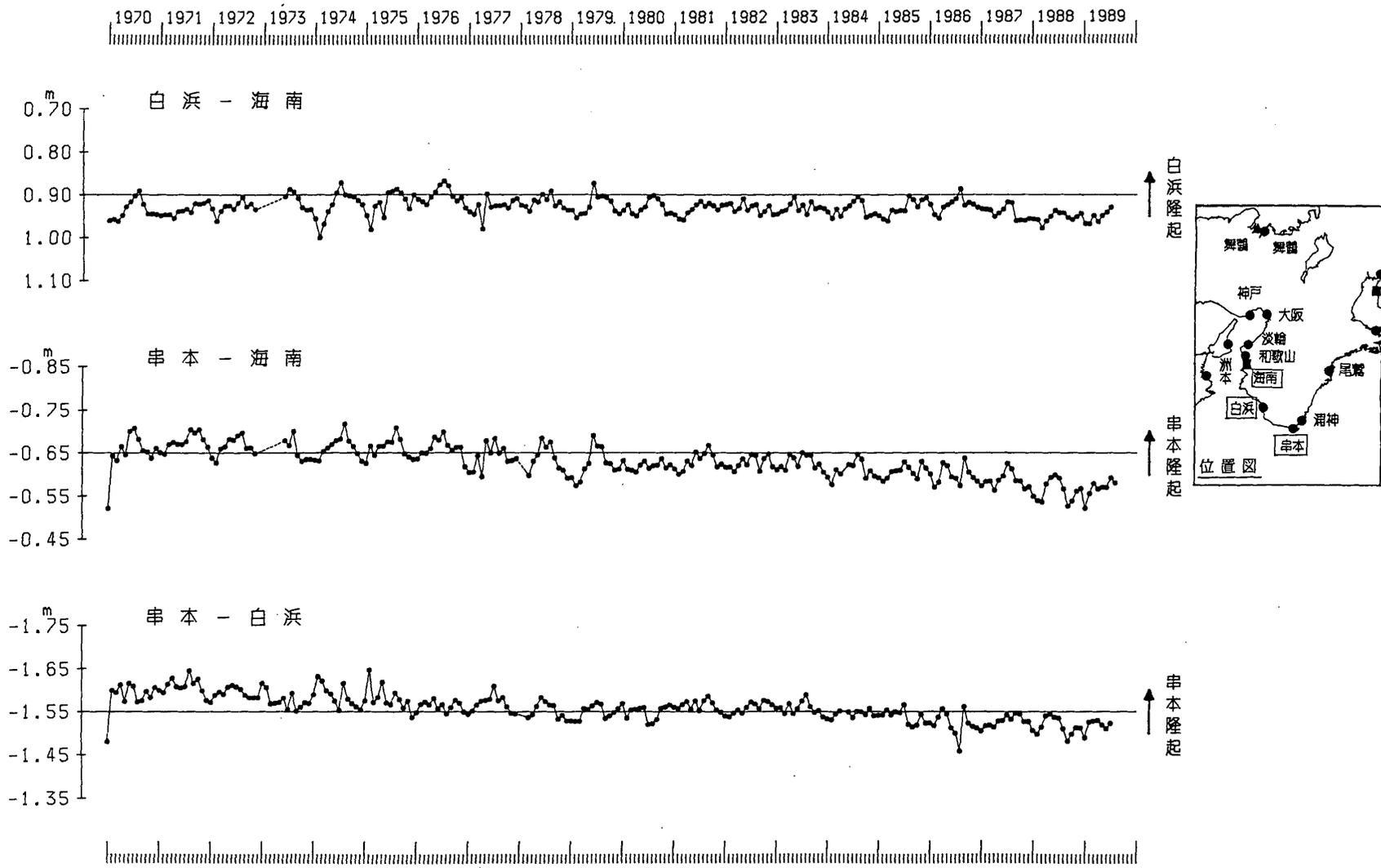
第2図 付知精密変歪測量結果

Fig. 2 Results of precise distance measurements at the Tsukechi radial base-line.



第3図 海南～すさみ間の上下変動

Fig. 3 Level changes along the route from Kainan to Susami.



第4図 白浜、海南、串本各験潮場間の月平均潮位差

Fig. 4 Differences in monthly mean sea levels between Shirahama, Kainan and Kushimoto tide stations.